

わらしべ会

丸山正雄

枚方市の企業団地の一角にあるダイコロ株式会社柔道部及び少年柔道教室の鏡開きに来賓として出席した。

まずは、館長の松本秀作（社長）さんが、柔道だけではなく仕事や勉学にも励むことが重要であること。また、昨年5名の新人が入部し、主将を中心として大阪実業団柔道大会で4年ぶりの優勝をしたことについて説明し、年頭のあいさつを述べた。次に、柔道部後援会長の林弘之（庫内社長）さんが、昨年の自然災害やダイコロ株式会社創立65周年の節目の年であったことを述べ、新年のあいさつを行った。丸山からは、会報の武道館だよりが例年より選手のコメントには感謝という言葉が多く記載され、感謝しあう関係づくりが人にも物にも優しい関係を作るうえで大切なのではないかと申し上げた。最後に、総監督の大山昭三さんからは、身体や知的・精神にハンディキャップのある人への配慮を求めることを、自身の視覚障害者への電車内でエスコートした体験をもとに話された。

#### 寒げいこ

- 1 受け身 前方受け身 後方受け身 横受け身 飛び込み前方回転受け身（1人～4人がうつ伏せになる） ピラミッドでの前方回転受け身（三段目の高さを飛び越える）
- 2 打ち込み
- 3 乱取

例年と違ったスタイルでの寒げいこは迫力があり、子どもたちの表情がとても良かった。特に、飛び込み前方回転は徐々に難易度を高め、高学年になるほど見事な受け身を披露した。最後の4人越えは中学生、ピラミッド越えは中学生の一部とダイコロ柔道部員が行い、多くの聴衆の度肝を抜いた。

ここでダイコロ柔道部について触れたい。総監督は大山昭三さんで宮崎県出身。天理大学卒業後、イタリアに柔道の海外指導者として赴き、当時ハンガリーのペトゥ研究所で研修中であつた村井正直先生が赴任先を訪ねてこられ、意気投合する。帰国後、村井先生の紹介でダイコロ株式会社社長の故松本甫さん（わらしべ学園を育てる会長）と出会い、入社。入社と同時に柔道部創設。実業団柔道連盟では西の雄としての実績を積み、バルセロナ、アトランタ、シドニーと3大会連続でオリンピック選手を派遣。檜崎教子（旧姓菅原）選手がアトランタ五輪52kg級で銅メダル、シドニー五輪では同級で銀メダルを獲得した。なお、イタ

リアから帰国前後には村井先生の日本とハンガリーの小中学生による交換ホームステイのボランティアをし、2010年に村井先生が他界するまで親交は続いた。

余談であるが、交換ホームステイについて追記したい。1979年当時小学生だったアルベルトさんが長尾の村井先生を訪ねてきたのは2002年の秋だった。駐日ハンガリー大使館の1等書記官として赴任したばかりであった。柔道着一つ携え稽古をした。もう一つの話は、20015年ごろ元家具町在住であった富山順基さんが村井先生を訪ねてきた。2010年に他界されたことを話すと落胆された。当時は怖くて厳しい先生であったが、実業家として一人前になった姿を見ていただこうと思い立ち、訪ねてこられたという。彼も前述したアルベルトさんと同様当時小学校低学年でハンガリーでのホームステイを経験したという。2016年10月に村井先生と陽子先生の7回忌法要に出席し、恩師への思いに一区切りつけられたことを喜んでおられた。富山さんは社会貢献活動として大阪新大阪ライオンズクラブに所属し、何度も丸山を会合に招き、わらしべの活動を他のメンバーに理解を求め、柔道での投げ技用稽古用人形2体を寄付して下さった。また、2018年1月に淀川区民会館でチャリティコンサートを開催し、チャリティ募金全額をわらしべ会に寄付して下さった。ありがたい。

2019年早々のダイコロ武友館鏡開きに参加し、40年前の村井先生の思いが伝わってきた気がする。少年柔道教室を開き、子どもたちへの大きな期待、障害児とのインテグレート教育、人間的な成長と学習、国際感覚を磨くこと、協調性を養うこと、規律を学ぶこと、等々が常に思考していたのだろう。しかも、何時潰れるかわからないわらしべ学園を開設したばかりの時期にである。村井先生の意をくみ、会社あげてバックアップして下さったダイコロ株式会社、ダイコロ会、わらしべと共に歩む会（旧わらしべ学園を育てる会）の皆様が心から感謝の意をお伝えしたい。

以上